

科目名称：	心理学（美術学科）	
担当者名：	柴田 英登	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>「心理学」とは、その名の通り「こころ」についての学問です。しかしその「こころ」というものが何なのか、私たちはわかっているようで、いざ説明しようとしてみると苦戦するように思います。この講義では、そのような漠然とした「こころ」のイメージを具体化すべく、心理学の知見を広く紹介し学んでいきます。学生は自分や身近な人々について考えながら講義を受けると良いです。15回の講義が終わるころには、「心理学とは…」 「こころとは…」と学生自身がそれぞれ考えを述べられるようになること、そして今後の人間関係や社会生活に生かしていくことを目指します。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①動物としての「ヒト」のこころの働きについて基礎的な知識を得る ②社会的な「人」「人間」について理解を深め、身近な例から考えられるようにする ③自分自身の行動や生活について、心理学的視点から説明できるようにする</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	60		20	20	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》臨床心理（カウンセリング）業務	《経験年数1》15年（臨床心理士・公認心理師）
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
専門知識の習得と活用	講義で得た知識を組み合わせて思考することができる	講義で得た知識を使って思考することができる	講義で得た知識を理解することができる	講義で得た知識の習得が不十分である
文章力・表現力	専門知識を平易な表現の中に組み込んだ柔軟な説明ができる	身近な出来事についての心理学的な説明が可能である	教科書的な事例や出来事に対して、専門知識を使った説明が可能である	説明のための語彙や理解が不足している

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 心理学とは	「心理学」に対する自分のイメージをまとめておく	40分
第2回 自分について考える(性格検査体験・演習)	「気質」や「性格」といった言葉や意味の違いについて調べておく	40分
第3回 感覚・知覚 ～ものの見え方・感じ方～	人の感覚器官(五感)や錯覚について調べておく	40分
第4回 記憶のしくみ(記憶実験・演習)	記憶実験をします。よく寝ておくように	40分
第5回 学習①レスポナント条件づけ	「恐怖」という感情がなぜ必要か、自分なりに考えておく	40分
第6回 学習②オペラント条件づけ	前回内容のレスポナント条件づけについて復習しておく	40分
第7回 学習③動機づけ	「学習性無力感」について調べておく	40分
第8回 対人関係①親子の関わりからはじまる	「新生児反射」について、いくつか調べておく	40分
第9回 対人関係②人は生涯発達していく	エリクソンの心理社会的発達理論における「青年期」について調べ、自分と照らし合わせてみる	40分
第10回 集団と個人	「傍観者効果」について調べておく	40分
第11回 性格とストレス	第2回内容について復習しておく	40分
第12回 コミュニケーション①聴く(演習)	日常で人の話を聴く際に大切にしていることを考えておく	40分
第13回 コミュニケーション②話す(演習)	日常で人に話す際に大切にしていることを考えておく	40分
第14回 心が疲れてしまった時は	自分のストレス対処(コーピング)方法について振り返っておく	40分
第15回 睡眠について	睡眠の役割について考えておく	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

提出物20% 授業への積極的関与20%

課題に対するフィードバック

提出物についてはコメント等の形でフィードバックしますので、授業理解度の参考にしてください。

教科書：なし

参考書：参考資料やプリントを適宜授業内で配布・紹介します